

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表:令和 5 年 11 月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 野田教室

保護者等数(児童数) 14(16) 回収数 14 割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからな い	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13	0	0	1	広いと思います。庭があっいています。	庭での外遊びがある分、走り回る活動もあるため、事故や怪我のリスクも高まります。庭での活動の時間は、特に職員配置を気を付ける等、気を付けていきたいと思っています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	10	0	0	4	全員資格のある先生しか会ったことがない。	全員有資格者を配置をしています。また、職員のスキルアップを目指し、定期的な研修を行っています。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	0	0	8	身体障害ではないのでわからない。	利用児に合わせた環境作りを心掛けていきます。わかりやすい絵をつけた表示や、室内の掲示物等も、工夫していきたいと思っています。また、利用児の導線を考え、ぶつけやすい場所や、怪我をしやすいものがないか等、日々安全を考えた環境作りをしていきます。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	13	1	0	0		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	13	1	0	0	毎月違うプログラムで、子供が楽しめています。	プログラムは、その季節に合わせた活動を心掛け、食育では、旬のものを取り入れるよう、工夫していきます。イベントや行事等は、曜日に偏りが無いよう、各曜日の利用児が楽しめるよう、計画していきます。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	1	0	11	放課後児童クラブとは何の事か分からない。	近隣でもまだコロナやインフルエンザ等の流行が続いている状況ですので、もう少し状況が改善した後、今後の課題として検討していきます。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	14	0	0	0	説明いただき、理解しています。	送迎時はゆっくりお話をすることができないため、必要な事項があれば、児童発達支援管理責任者から連絡をさせていただきます。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	13	1	0	0		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	10	4	0	0	いつも悩み相談をさせていただき、感謝しています。	ご相談があれば、いつでもお電話をいただき、児童発達支援管理責任者が対応させていただきます。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	3	2	7	送迎してもらっているのですが他の保護者さんとの機会がないのでわかりません。	コロナ前保護者会を行っており、好評でしたが、コロナ禍でできなくなりました。まだ近隣でのコロナやインフルエンザ等の流行状況が落ち着き次第、計画をしたいと思っています。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	0	0	4	苦情なし	苦情があれば、記録表に記載し、職員間で共有、児童発達支援管理責任者と、職員で対応策を話し合い、ご報告させていただきます。また、その記録も職員で共有していきます。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11	2	0	1		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	13	1	0	0	毎月の手紙、楽しみにしています。	「こぼんはうすさくらだより」にて、行事等のプログラムを記載しています。「こぼん通信」では、前月の行事等の様子を写真付きでご紹介しています。今後も、様子がわかるような手紙を発行していきたいと思っています。
非常時 等の 対応	14 個人情報に十分注意しているか	13	0	0	1		
	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	14	0	0	0		
満足 度	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14	0	0	0	定期的にプログラムに入っています。手紙で訓練の様子を知ることができ、安心して子どもを預けられています。	定期的に避難訓練をプログラムに入れています。利用児もスムーズに動けるようになってきているので、引き続き、指導していきたいと思えます。
	17 子どもは通所を楽しみにしているか	11	3	0	0	毎回行けるのを楽しみにしています。	楽しみながら療育に繋がるようなプログラムを計画していきます。曜日ごとに偏りが無いよう、バランスの良いプログラムを組めるよう、気を
	18 事業所の支援に満足しているか	13	1	0	0	いつも丁寧に対応してくださりとても感謝しています。その日の様子など教えてくれるので助かってます。	今後もご満足いただける支援を続けられるよう、職員間で連携し、療育をしていきたいと思っています。

195 18 2 37

77%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 11 月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 野田教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13		広さは適切だが活動によってコーナー毎に分けて活動が混在しないようにしている。	危険のないように日々点検する。
	2 職員の配置数は適切である	13		障害の程度に合わせ加配したり、基準より多く配置している。適切に配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	13		イラストを用いたわかりやすい表示や、利用児の導線を考え、危険な個所がないか等、日々チェックしている。	その日の利用児に合わせて環境を整える。外から入る時には段差があるので、1人ずつ確実に通るようにしている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13		毎日の振り返りや定期的なミーティングをしている。	その日にいなかった職員にも伝わるよう、振り返りノートに記録を残し、いつでも振り返ることができるようにする。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13		毎年アンケートを行い、改善等している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13		こぼんはうすさくら本部のホームページで公開している。	こぼんはうすさくらホームページだけでなく、市役所のホームページにも公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13			
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13		様々な種類の研修を受けられる。ミーティングの中での研修会や、県などの主催の研修会にも参加をしている。	できるだけ多くの職員が参加できるように機会を増やす。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	13		定期的なモニタリングで聞き取りをし、計画に反映している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13		本部からのものを使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	13		立案は児発管が行っているが日々のプログラムについて職員で話し合いながら行っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13		毎月違うプログラムを行っている。	曜日ごとに偏りがないように工夫する。下校時間や発達の差で取り組みが多少変わってくるので、よく話し合っって充実した時間となるようにする。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	13		時間の配分等子どもたちも交えて話し合っている。それぞれに合った課題で取り組んでいる。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13		個の時間も大切に集団は参加したいと思える計画にしている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13		毎日の朝礼で職員全体で確認している。	リーダーを中心に確認し、不明な点がないように職員全体で周知する。下校時間によっては開始前に全員で打合せができないこともあるので、個々に打合せ内容を伝えるようにしている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13		支援後に振り返りを行い、ノートに記入している。その日に出勤していない職員にも共有している。	その日にいなかった職員にも伝わるように分かり易く記録し、いつでも振り返ることができるようにする。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13		支援後に振り返りを行い、ノートに記入している。その日に出勤していない職員にも共有している。	情緒面等気にかかる点を確実に引き継げるよう連絡ノート等を活用。ただ、文字では伝わりにくいニュアンスもあり、難しく感じている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13		半年に1回行っている。	本人の目標と、保護者の目標とのずれはあるので、丁寧に聞き取りするようにしている。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	13			
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13		基本的に児発管が参加しているが最近の様子は他職員からも聞き取りをしている。		
21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	13			個人情報の問題や学校の体制によっては保護者経由でということもあるので、保護者の方にも日頃から下校や年間行事について把握をお願いしている。	
22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	対象外	対象外	対象外	対象外	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	13		児発管が行っている。	保護者が現在通っているところとの共有は望むが、以前通っていたところは望まない場合も多い。必要であれば必要性をしっかりと話すようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	13		児発管が行っている。	まだその年齢の子を支援したことはないが制度等を理解するように努めた。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13		県の研修などを受けている。また、相談支援専門員の方に直接見に来ていただき、情報共有、アドバイスをいただいている。	研修の機会があれば参加する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8	5	こぼん内の他教室とは交流している。	コロナ禍のため他教室とは交流できていない。公園や外出先で出会った時には一緒に過ごしている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	13		あまり活発に開催されてはいないが市からの情報はチェックしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13		学校行事や学校の面談後には様子を共有するようにしている。送迎時に様子をお伝えしている。必要であれば電話等で対応もしている。	職員にも共有できるよう、記録を保管、共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	13			年齢的なこともあり教室では有効な方法もご両親には反発する等見られる。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13		契約時に説明し、お伝えしている。	変更があれば、都度ご説明する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13		必要に応じて電話などで対応して、支援している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	9	コロナ禍のため開催できていない。	コロナが落ち着いたら計画する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	13			苦情があればすぐ対応できるように管理者等に伝え、対応する。その後共有する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13		毎月便りを発行し、写真を載せて様子を伝えている。	個人情報に注意し、ダブルチェックをする。
	35	個人情報に十分注意している	13		鍵付きのところに保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13		絵やカードを使い伝わりやすいように工夫する。	どのような方法が有効か、職員間でも相談し、共有していく。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	11	コロナ禍のため開催できていない。	コロナが落ち着いたら計画する。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	13		マニュアルを作成している。	コロナの対応は学校と異なるため多少混乱も見られる。折を見て説明をしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13		定期的に避難訓練をしている。	子どもも職員も全員が参加できるように訓練の日程を調整する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13		具体的な事例で虐待について意識してもらうようにしている。ミーティング時に、研修の時間を作り、職員に教育している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	13			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13		おやつ等アレルギー対応している。確認の際にもダブルチェックしている。	職員全体が周知できるように朝礼等でアレルギーの有無の確認もしていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13		ヒヤリハットが発生した際に朝礼や振り返りで共有し対策を行っている。	その日いなかった職員にも伝わるよう、連絡ノートで伝達、情報の共有をする。